

大学院保健医療学研究科医療技術学専攻

ディプロマ・ポリシー

医療技術学専攻では、学生に学位を授与するにあたり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を次のとおり定めることとします。

1. 専攻や分野の別を超えて保健医療の動向や医療系人材の役割など、幅広い視野を身に付けるための関連領域に関する知識を身に付けている。
2. 医療情報や放射線科学に関する最新の知見や動向に関する深い理解と医療情報の複眼的・論理的な分析手法や科学的思考法を身に付けている。
3. 医療機器や放射線技術の特性や場面に応じた現象を科学的に探究し、実践するための高度な専門的知識と専門応用能力を身に付けている。
4. 高度の専門性を必要とされる業務に必要な研究マインド及び主として患者を対象とする臨床研究の遂行能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

医療技術学専攻では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、修了までに院生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとします。

1. 保健医療の現状と課題の理解、他職種との連携や協働、医療倫理や医療安全のあり方など、関連する分野の基礎的素養を涵養する科目群を配置します。
2. 医療現場で必要となる医療情報、医療マネジメント、医療統計に関する知識の理解と放射線科学の臨床応用に関する理解を深める科目群を配置します。
3. 様々な健康状態や多様な場で医療機器や放射線診療を必要とする人々への医療機器操作や放射線診療に対し、批判的検討ができ、質の高い医療機器操作や放射線技術を創設する能力を高める科目群を配置します。
4. 臨床工学又は放射線技術の実践を質的又は量的な側面から扱う研究手法や研究倫理、研究課題を探索するための研究デザイン及び批判力、論理性、表現力を高める科目群を配置します。
5. 知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、知識の検証を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採ります。

6. 研究指導については、複数の研究指導教員による研究指導體制の下、徹底的な個別による研究指導を行うこととし、特に、研究計画の策定指導においては、多様な入学者が自ら研究計画を立て、主体的に研究活動を実践できるよう組織的な体制による指導を行います。
7. 学修者の能動的な学修への参加を促すことから、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする能動的学修を導入するとともに、院生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する人材像に対応した典型的な履修モデルを提示します。